

資料館ジャッカ・ドフニ JACKA DOFUNI

北方少数民族資料館ジャッカ・ドフニの看板

北方少数民族資料館ジャッカ・ドフニは、樺太（サハリン）に暮らしてきたウイльта、ニブフ、樺太アイヌの資料館で、運営はウイльта協会がおこなってきました。ジャッカ・ドフニとは、大切なものを守る家を意味するウイльта語（jakka 宝、duxu-ni 家-その）です。

日露戦争後のポーツマス条約（1905年／明治38年）でサハリン島の北緯50度以南は日本領に、以北はロシア領にと決められました。そして日本領となった範囲にいた少数民族は、それ以降日本の影響を強く受けることになりました。樺太アイヌを除く少数民族の多くが敷香（現在のポロナイスク）郊外のオタスとよばれた地域に暮らすようになり、少数民族の子弟を教育する学校も作られました。若者たちは、日本の軍事訓練を受け、その関係からシベリアの収容所に送られることもありました。

戦後いろいろな事情から、故郷を離れ北海道や本州へ移住してきた人たちもいます。その一人がウイльтаのダーヒンニェニ＝ゲンダーヌ氏でした。ゲンダーヌ氏もシベリア抑留を体験しましたが、帰還先として日本を選択し、舞鶴に降り立ちました。そこから紆余曲折を経て、網走で暮らすこととなります。

網走にきたゲンダーヌ氏は、三つの夢を語りました。「里帰り（サハリンの同胞との交流）」「戦没者慰霊碑の建立」そして「ジャッカ・ドフニの建設」です。自分たちの文化を残し、正しく伝えたい—その思いは、大勢の賛同をよび、1978（昭和53）年にジャッカ・ドフニはオープンし、ゲンダーヌ氏が初代の館長に就任しました。

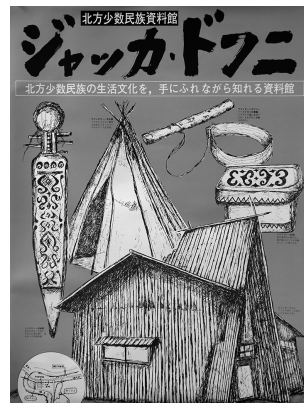
設立にあたって網走市は土地を無償貸与し、多数の寄附金も寄せられました。寄附金は開館以降も寄せられ続け、非常に多くの方の支援によりジャッカ・ドフニは運営を続けてきました。少数民族が自ら博物館を設立し、情報発信をしていたことや、展示資料にふれることができるという点で先進的な資料館でした。

ゲンダーヌ氏がウイльта文化を継承すると決意してから35年後、ジャッカ・ドフニは閉館し、ジャッカ・ドフニのすべての資料が北方民族博物館に移されることになりました。この企画展では、これら資料を紹介し、ジャッカ・ドフニの軌跡をたどります。

関連年表（敬称略）

- 1955年4月 ダーヒンニェニ＝ゲンダーヌ（北川源太郎）舞鶴へ引き揚げ
- 1975年7月 「オロッコの人権と文化を守る会」（後のウイльта協会）発足
- 1975年10月 ゲンダーヌ ウイльта文化継承の決意を表明
- 1977年11月 ゲンダーヌ三つの夢を語る
- 1978年『ゲンダーヌ：ある北方少数民族のドラマ』（田中了共著、現代史出版会）発行
- 1978年8月5日 北方少数民族資料館ジャッカ・ドフニ開館
- 1980年『資料館ジャッカ・ドフニ展示作品集』発行
- 1981年7月 サハリン墓参
- 1982年5月 慰霊碑「キリシエ」を網走市天都山に建立
- 1984年7月8日 ゲンダーヌ逝去
- 2002年2月 『北方少数民族資料館ジャッカ・ドフニ展示作品集〔改訂版〕』発行
- 2007年 北川アイ子第二代館長逝去
- 2010年10月31日 一般公開終了
- 2012年8月18日 閉館

（背景 ウイльтаの切り絵）



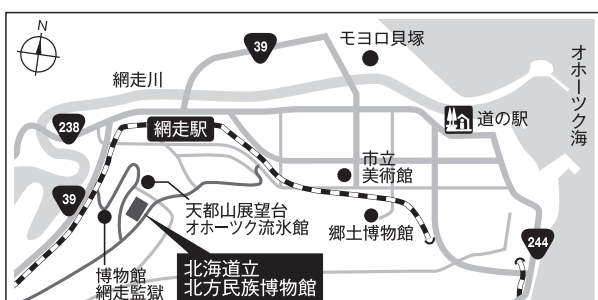
ポスター



パンフレット

企画展関連事業

- 講習会 ウイльтаのミトン「マンバッカ」づくり 平成30年2月20日（火）10:00-12:00
- 解説会 企画展展示解説会 平成30年2月25日（日）10:00-11:30
- はくぶつかんクラブ イルガ文様の木箱づくり 平成30年3月10日（土）10:00-12:00
- 講習会 ウイльта刺繍の財布作り 平成30年3月11日（日）9:30-12:00 講師 / フレップ会会員
- 講座 先住民文化について語る、ということ—オーストラリア アボリジニからジャッカ・ドフニへの道 平成30年3月24日（土）10:00-11:30 講師 / 中村和恵 明治大学教授



トナカイ革製財布／ウイльта

〒093-0042 北海道網走市字潮見 309-1
（道立オホーツク公園・天都山）
電話 0152-45-3888 FAX0152-45-3889
<http://hoppohm.org>

北海道立北方民族博物館
Hokkaido Museum of Northern Peoples